



二葉幼稚園

園のたより

2020年



6月の聖句

あなたがたはそれぞれ
たまものを さずかっているのです

ペトロ | 4:10

6月のさんびか

ちいさいおてて(ふたたび登場なので4月に配布済み)

ようじさんびか5

やってみる



あるところにA子という女の子がいました。A子には、年子で双子の兄がいます。2人は生まれた時から互いを意識して、勉強もスポーツも切磋琢磨して育ちました。A子といえば、おてんばだけど泣き虫。勉強より空想が大好き。当時は双子が珍しく、しかもその妹、A子という名前のおかげで、学校では「兄ちゃんらと大違いやな。お前はええ子やない！悪い子や」とよく皆の前で叱られ、からかわれたものでした。何をすることも自信がなくて、物事にチャレンジする前から「どうせできないもん」と。結果を恐れ、傷つのが怖くて、諦めてばかりいました。そんな自分が嫌で、でも一歩を踏み出す勇気もなく、の繰り返し。

そんなA子に何度か転機が訪れました。その1つ。小さい頃からの夢、幼稚園の先生になるための実習で子ども達から「A子先生！」と呼ばれた瞬間。

こんな私を「先生!」と呼び、満面の笑みで抱きしめる人達がいる……。

A子は子ども達の姿に神さまを見る思いでした。ありのままのA子を、最初に受け入れたのは、他でもない、子ども達でした。……変わりたい。真摯な瞳に伝えたい……。そして数十年の紆余曲折を経て、とある園の園長になり、温かい方々と一緒に日々奮闘しているそうです。

さて、6月の目標は「やってみる」。誰もが初めての分散・時差登園。ウイルスとの共存、長い闘いに、規制の多い中、消毒をしながらの保育です。保育を始めるにあたって、教職員で気になることを出し合い、考える対応・対策について話し合いを重ね、医療に関わる方々のご意見も聞きながら、できることから始めました。この半年間、世界中の人達が自分のできることを探して歩んできたことでしょう。私達も子ども達が安心して二葉に戻れるように、ひたすら願いつつ、無心に歩んできました。例え、現実には難しいと思っても、まずは提案してみる、相談してみる、やってみる。その結果、沢山の人が知恵と力を持ち寄り、諦めずに楽しみながら工夫を重ね、少しずつ形になってきた再開準備。まだまだ課題は山積ですが一つずつ一つずつ。

今月の聖書の言葉のように、誰もが賜を授かっている、それらを持ち寄り、生かし合うと、次々と不思議な変化が生まれていくのです！

子ども達やご家族の健康を考えて、どうぞお気づきのことなどありましたら、忌憚なくお声をお聞かせください。教職員にも家族がいて、公共交通機関を利用している通勤です。お互いに感染のリスクを抱えながらの毎日です。お一人で抱え込まず、思い込まず、オープンに、二葉に関わるみんながワンチームとなり、子ども達の笑顔のために、知恵と力を出し合いませんか？皆さま！今年度は、ふたば会総会も開けないので紙面にて、役員立候補を募るそうですよ!!

昨今、コロナウイルスで突然命を奪われた方々、前ぶれもなく愛するご家族を失い、十分なお別れもできず深い哀しみの中にいらっしゃる方々を思うと本当にいたたまれません。ご冥福を心よりお祈りしつつ、できることをやってみる。医療従事者の方々へは唯々深謝するばかりです。

この状況が落ち着き、また息を吸うことも吐くことも当たり前だった日常に戻れる日を待ち望んで。

今日も生かされている私達。ささやかなしあわせは、ここかしこに……感謝して。 【園長】